

此この発ほつ菩提ぼだい心しん、多おおくは南閻浮なんえんぶの人身にんしんに発心ほつしんす  
べきなり、今いま是かくの如ごとくの因縁いんねんあり、願がん生しょう此し  
娑婆しやば国土こくどし来きたれり、見けん釈迦しやくか牟尼むに仏ぶつを喜よろこばざ  
らんや。静しずかに憶おもうべし、正しょう法ぼう世よに流布るふせ  
ざらん時は、身命しんめいを正しょう法ぼうの為ために抛捨ほうしやせんこ  
とを願ねごうとも値おうべからず、正しょう法ぼうに逢おう  
今日こんにちの吾等われらを願ねごうべし、見みずや、仏ほとけの言たまわ  
く、無むじ上しょう菩提ぼだいを演説えんぜつする師しに値あわんには、  
種しゆ姓しょうを觀かんずること莫なかれ、容顔ようがんを見みること莫なか  
れ、非ひを嫌きらうこと莫なかれ、行おこなを考かんうること莫なか  
れ、但ただ般若はんじやくを尊そん重じゆうするが故ゆえに、日にち日にち三さん時じに  
礼らい拜はいし、恭くぎ敬きやうして、更さらに患げん惱のうの心こころを生しょうぜし  
むること莫なかれと。

今いまの見けん仏ぶつ聞もん法ぼうは仏ぶつ祖そ面めん面めんの行ぎ持ようより来きたれる  
慈じ恩おんなり、仏ぶつ祖そ若もし単たん伝でんせずば、奈い何かにし  
てか今こん日にちに至いたらん、一いつ句くの恩おん尚なお報ほう謝しゃすべ  
し、一いつ法ぼうの恩おん尚なお報ほう謝しゃすべし、況いや  
正しょう法ぼう眼げん蔵ぞう無む上じょう大だい法ぼうの大だい恩おんこれを報ほう謝しゃせざ  
らんや、病び雀じやく尚なお恩おんを忘わすれず三さん府ふの環かん能よ  
く報ほう謝しゃあり、窮き亀う尚なお恩おんを忘わすれず、余よ不ふ  
印いん能よく報ほう謝しゃあり、畜ちく類るい尚なお恩おんを報ほうず、人じん類るい  
争いかか恩おんを知しらざらん。其その報ほう謝しゃは余よ外げの法ぼうは  
中あたるべからず、唯ただ当まさに日にち日にちの行ぎ持よう、其その報ほう謝しゃ  
の正しょう道どうなるべし、謂いわゆるの道どう理りは日にち日にちの  
生せい命めいを等な閑おにせず、私わたくしに費つやさざらんと  
行ぎ持ようするなり。

光陰は矢よりも迅かなり、身命は露よりも  
脆し、何れの善巧方便ありてか過ぎにし  
一日を復び環し得たる、徒らに百歳生け  
らんは恨むべき日月なり、悲むべき形骸な  
り、設い百歳の日月は声色の奴婢と馳走す  
とも、其中一日の行持を行取せば一生の  
百歳を行取するのみに非ず、百歳の他生  
をも度取すべきなり、此一日の身命は尊ぶ  
べき身命なり、貴ぶべき形骸なり、此行持  
あらん身心自からも愛すべし、自からも敬  
うべし、我等が行持に依りて諸仏の行持  
見成し、諸仏の大道通達するなり、然あれ  
ば即ち一日の行持是れ諸仏の種子なり、

# 修証義

## 〈第五章〉

### 行持報恩

〔四〕

諸仏しよぶつの行持ぎょうじなり。謂いわゆる諸仏しよぶつとは

釈迦牟尼仏しやかむににぶつなり、釈迦牟尼仏しやかむににぶつ是れ即心是仏そくしんぜぶつな

り、過去現在未来かこげんざいみらいの諸仏しよぶつ、共に仏ともと成ほとける時な

は必ずかなら釈迦牟尼仏しやかむににぶつとなるなり、是これ

即心是仏そくしんぜぶつなり、即心是仏そくしんぜぶつというは誰たれというぞ

と審細しんさいに参究さんきゆうすべし、正まさに仏恩ぶつおんを報ほうずるに

てあらん。